

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.93

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

<エッセイ>

語源学習の楽しさ

松岡博信

学部生時代、恩師である和田章先生から *OED* の各見出し語の末尾に記載されている *etymology* (語源) の読み方を教わり、大変興味を持った。今でもその教えは生きており、時々大学院生などに伝授する。

本学では各学期の最初の学科ガイダンスの際に、学科所属の全学生を一同に集めて、「学科長講話」なるものを行う。この4月に私が行った講話のテーマは「語源で見る欧米語」であった。*Latin abbreviations* である *i.e.* / *that is* (*id est*), *e.g.* / *for example* (*exempli gratia*), *etc.* / *and so forth* (*et cetera*), *cf.* / *compare* (*confer*), *et al.* / *and others* (*et alia*), *N.B.* / *note well* (*nota bene*) から始まり、フランス語の春を意味する *printemps* が *prin* (一番の) と *temps* (時) から成っており、それが春という意味に繋がることを教えた。そして、接頭辞 *pri-* はラテン語の *primus* に由来し、「初めて、主要な」という意味を持つこと。そこから *principal* (第一人者の先生), *principle* (第一の法則), *prime minister* (第一の大臣), *primary school* (一番目の学校), *primitive* (第一の状態) のごとく、いろいろな語と一緒に覚えられると説き、語源による語彙学習の有益さを伝えた。その他、ラテン語は、数量の単位に深く関わっており、デシ【*deci*】(10分の1を表す単位の接頭語)、センチ【*centi*】(100分の1) ミリ【*milli*】(1,000分の1) についても解説した。

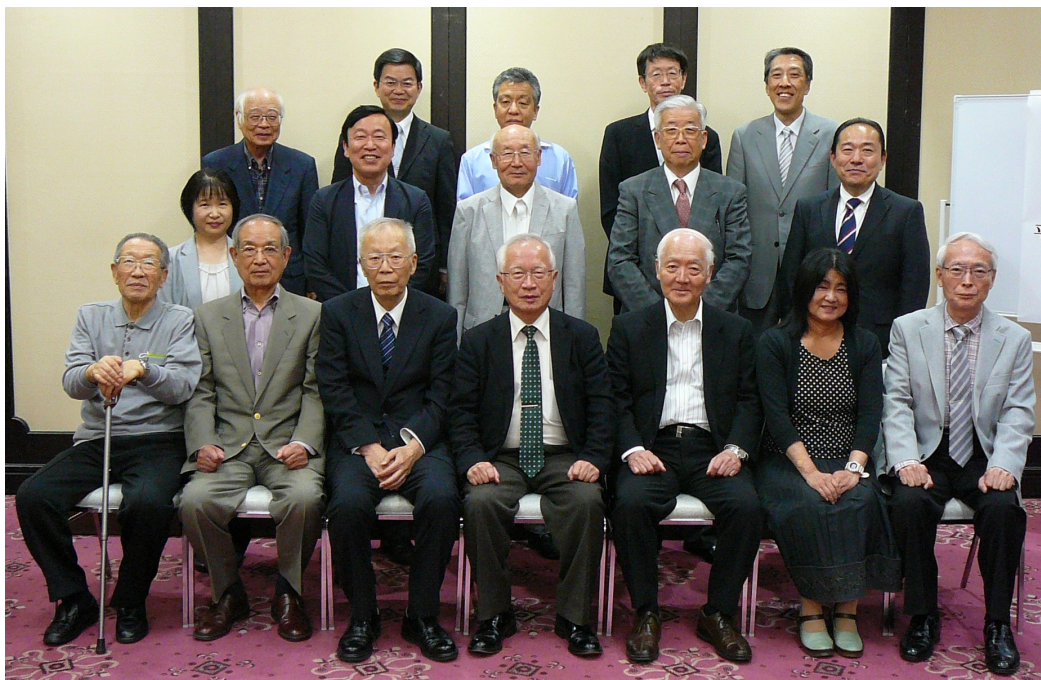
学科長講話のために準備する過程で、昔の興味が再び大きく沸き上がり、それが過ぎても、ある授業での最初の10分間は、様々な *morpheme* (形態素) とそれらが含まれる英単語の解説を始めるようになった。そうこうしているうちに、英単語に占めるラテン語の割合の大きさに改めて驚いた。ある調査によると、英語語彙において、①ラテン語 (主に専門用語) 由来が 29%, ②フランス語 (書き言葉などに多い) が 29%, ③ドイツ語 (英語日常会話を支える部分) が 26% もある。フランス語から入ったものの多くもラテン語由来のものであることを考えると、ラテン語の接頭辞、語幹 (語根)、接尾辞に精通すれば、英語語彙の原義をかなり把握することができる。

一方、日本語に目を向けても欧米語と無縁ではない。幕末において例外的に長崎の出島で交易を行っていたのであるから、以下のごとく、特にオランダ語の影響が大きい。

・インキ	inkt	・サフラン	saffraan	・デッキ	dek
・エクス	extract	・シロップ	siroop	・ドック	dok
・エーテル	ether	・スコップ	schop	・どんたく	zondag
・お転婆	ontembaar	・ズック	doek	・ニッケル	nikkel
・カバン	kabas	・スポイト	sput	・ビーカー	beker
・カン	kan	・ソーダ	soda	・コーヒー	koffie
・カンテラ	kandelaar	・トラップ	trap	・ゴム	gom
・ギプス	gips	・ダンス	dans	・コルク	kurk
・コック	kok	・チンキ	tinctuur	・コンパス	kompas

このように、語源に関する興味は尽きない。語源知識を活用した英語語彙学習の WEB 学習システムを構築しようと、現在コツコツと教材を集めている。(安田女子大学／日本英学史学会中国・四国支部副支部長)

平成30年度 総会・第1回(通算78回) 研究例会 報告



サテライトキャンパスひろしま 505 中講義室にて (2018.5.26.)

日本英学史学会中国・四国支部 平成30年度総会, 及び第1回(通算第78回) 研究例会は以下の通り開催され, 盛会裏に終了いたしました(参加者20名)。ご参加くださいました皆様に, 心より厚くお礼申し上げます。

日 時: 2018年5月26日(土) 13:00 受付開始

会 場: サテライトキャンパスひろしま(広島県民文化センター) 504 中講義室(5階)

〒730-0051 広島県広島市中区大手町1-5-3 TEL 082-258-3131

支部総会(13:20~13:50)

支部長挨拶, 平成29年度活動報告・会計報告・会計監査報告, 平成30年度活動計画

開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶 竹中 龍範(香川大学)

研究発表(14:05~15:15)

司会: 河村 和也(県立広島大学)

「稲垣 巖の『ジョルジュ・サンド考』(原稿)について」

田中 正道(広島大学名誉教授)

資料紹介(15:30~16:40)

司会: 馬本 勉(県立広島大学)

「旧制岡山中学の英語教育史資料について」

安部 規子(久留米工業高等専門学校)

閉会行事(16:45~17:00) 副支部長挨拶 松岡 博信(安田女子大学)

懇親会(17:30~19:30) 広島酒呑童子にて

研究発表

「稲垣 巖の『ジョルジュ・サンド考』(原稿)について」
田中 正道 (広島大学名誉教授)



【発表を終えて】平成 29 年、稲垣明男氏から頂戴したご尊父稲垣巖（小泉八雲・セツ夫妻の次男）のジョルジュ・サンドの生涯と作品の特徴を考察した手書き原稿（400 字詰め 13 枚）の概略を紹介した。原稿中、ジョルジュ・サンドの生涯が 5 つの期に区分され、それぞれの期の作品にどのような時代思潮の影響がうかがえるのか、また、当時の著名な思想界、言論界の多くの男性との恋愛体験が十数の彼女の作品にどのように反映されているのかが手際よく論述されている。

発表時間内に詳細な説明・解説が出来なくてフロアーの皆様にご迷惑をお掛けしましたが、いつものがらの貴重なご指摘・ご教示を賜り本当にありがとうございました。

【参加者の感想】

◆貴重な資料を入手されてのご発表で、稲垣巖がこれをどこかに発表しようとして書いたものなのかどうか、若しくは、稲垣がこれを書いた、或いは書くに至ったどこかの段階でラフカディオ・ハーンが関わっているのかどうか、等々、興味関心が惹かれるところです。不明の点を一点でも二点でも明らかにしていただいて、ぜひ論文化して下さればと願っております。

<Dragon>

◆L. ハーンの次男、稲垣 巖氏の「ジョルジュ・サンド考」について大変興味深く拝聴させていただきました。一番興味を抱いたのは、巖氏がどういう経緯でジョルジュ・サンドの作品に関心を抱くようになったかということです。日本でサンドの作品が集中的に翻訳されるのは昭和 20 年代ですが、巖氏原稿は亡くなられる昭和 12 年以前に執筆されたと思われ、日本におけるサンド評価としてはかなり早いものと考えられます。ハーンの蔵書の半分がフ

ランス語の書物で占められていたとのことですので、父親の蔵書の中にあったサンドの作品を読み、感銘を受けて「サンド考」の執筆を思いついたのでしょうか。

<E. Woodhouse>

◆以前は、旧制の学校の入試問題の分析が主でしたが、今回は、小泉八雲の次男、稲垣巖に関する発表でした。知り合いから資料を頂いたということでしたが、それを眠らせず公表された功績は極めて大きいと思います。一方で、毎週のように学会発表されている田中先生の Vitality に見習わなければと自らを奮発したご発表でした。

◆田中先生の知的好奇心に裏打ちされた精力的研究ですね。広島大学の学統「やぶれかぶれ」を踏襲した研究と謙遜しながらも、第一次資料が先方から送られて来たとのことのお話を伺い、田中先生の人望の高さや行動力の賜物であると感じました。<堂鼻康晴>

◆ハーンに一番似ている次男、稲垣巖が英語教師であったことは知っていました。しかし、フランス文学を研究していたとは驚きです。外見だけでなく中身もハーンに一番似ていたのですね。これまでの文献ではわからなかった新事実を発見され貴重な資料を拝見させていただきました。これも広い人脈と感度の良いアンテナをお持ちの田中先生だからこそできること、ありがとうございました。<Rainbow>

◆ハーンの次男である稲垣巖がジョルジュ・サンドに関心を寄せていたことを明らかにする資料に触れ、富山大学附属図書館のヘルン文庫を訪れた際にフランス語の文献がたいへん多いのに驚いたことを思い出しました。ハーンの研究にはフランス語からのアプローチが欠かせないのだと感じます。今回のご発表は、うかがうほどに興味が増すものでした。不明であった点が明らかになることを願っています。

<Wajo>

◆稲垣巖の『ジョルジュ・サンド考』(原稿)について、資料原稿が第一級なのですばらしいと思いました。印刷物になることを希望しております。有難うございました。<貝嶋 崇>

◆貴重な一次資料に基づくご発表を大変興味深くうかがいました。原稿中、各所で「彼」と表記された女流作家ジョルジュ・サンド像にも惹かれます。作品を読んでみたいと思います。

<Horse>

資料紹介

「旧制岡山中学の英語教育史資料について」

安部 規子 (久留米工業高等専門学校)



【発表概要】今回は旧制岡山中学（現在の岡山県立岡山朝日高等学校）に関する英語教育史資料を紹介させていただきました。内容は、同校の卒業生で教諭も務められた後神俊文先生が長年にわたって収集されまとめられた学校史に関するものと、平成 29 年 3 月に私が岡山朝日高校資料館を訪問した際に閲覧させていただいた大正期の卒業生松尾義雄氏の英語教材（試験問題用紙、夏休みの宿題帳、ディクテーションノート、習字帳）や校誌のデジタル画像です。私自身はこれらの貴重な資料を研究に十分生かすことができていないのですが、当日は山田昌宏先生を始めご出席の先生方から多くのことをご教示いただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

【参加者の感想】

◆松村先生がよく喩えにされた点と点がつながって線となり、線と線とがつながって面となるというお話を思い出させるようなご発表で、ご研究の修猷館と杉森此馬に加え、その関係の網に岡山朝日高校の資料が結びつくに至る過程に興味深くうかがいました。資料が人を引き付けるというようによく言われますが、研究の楽屋話ともいえるこのようなご発表は、聞いている側も同じような経験をしたことを思い出し、思わず身を乗り出すものなので、研究方法論において参考ともなることとて、一度、支部例会の特番企画として座談、鼎談の形で組んでみることも面白いのではないかと考えました。＜Dragon＞

◆今回は旧制中学の教育史研究の縁で岡山中学の資料を頂いたということで、その紹介でした。各地の一中の教育史研究は主としてOBが継承されていることが多いようです。その方から頂いた一次資料をこれからどう料理するか、大変興味深い発表でした。

そこを、フロアーを含めて全員で議論できれば、もっと良かったと思っています。個人的には、史料を提供して頂いて有難く思っています。

◆漱石の「佐賀福岡尋常中学参観報告書」中で高く評価されている英語教師・小田堅立についていろいろ知ることができ大変勉強になりました。資料収集と編纂の「鬼」後神俊文氏の跡を襲い、旧制岡山中学の英語資料のさらなる収集に努められることを期待しております。＜E. Woodhouse＞

◆安部先生ご自身の研究フィールドを決して逸脱していない、つながりのある研究に感心しました。岡山朝日高校の名は存じていましたが、創立 140 周年を超える歴史ある、由緒ある学校であることを初めて知りました。後神俊文氏の校史編纂への尽力には脱帽しました。私もいつか岡山朝日高校資料館を訪れたいと思います。＜堂鼻康晴＞

◆修猷館、小田堅立、岡山中学、これらのキーワードを繋ぐべき調査をされその貴重な資料を拝見させていただきありがとうございました。岡山朝日高校の百年史、安部先生の今回の調査がきっかけとなり関係者がお元気なうちに作成されるといいですね。←「今」しかない、ですよね。＜Rainbow＞

◆お話の中にあつた「あまりに立派な学校なので、教員などでは校史は書けない」ということばに、伝統ある学校の校史を編むことの難しさをあらためて思いました。ご発表への直接の感想でなくて恐縮ですが、私がかつて関わった私立学校では、資料編纂室を設けて学園外の歴史家を招き、その方おひとりに百年史の執筆を任せていました。今にして思えば、大胆な発想だったと思います。＜Wajo＞

【研究例会全体について】

◆つい 1 週間前の日本英語教育史学会全国大会に続いての研究例会で、運営に当たって下さった馬本先生、河村先生には心理的にも、体力的にも相当なご負担だったかと思います。お疲れ様でしたという言葉では慰労にも何にもなりません、それでもやはり「お疲れ様でした。そして、有難うございました。」しばらくの間、せめて週末はゆっくりとお休みください。＜Dragon＞

◆アクセス性抜群の会場です。今後もこの会場を利用できれば幸いです。＜堂鼻康晴＞

中国・四国支部ニュース

>> 平成30年度支部総会

平成30年度支部総会は、5月26日(土)午後1時20分より、第1回研究例会に先立って行われました。竹中龍範支部長による挨拶の後、議長として安部規子会員を選出し、以下の議題について審議を行い、すべて原案通り承認されました。

1. 平成29年度活動報告
2. 平成29年度会計報告
3. 平成29年度会計監査報告
4. 平成30年度活動計画

平成29年度活動報告

事務局より昨年度の活動について報告しました。内容は、(1)支部総会、(2)第1回研究例会(広島)、(3)第2回研究例会(高松)、(4)『英学史論叢』第20号の発行、(5)『ニューズレター』No.89～No.91の発行、(6)理事会の開催(第1回、第2回)、の6項目です。詳細は『英学史論叢』第21号(pp.39-42)をご参照ください。

平成29年度会計・会計監査報告

収入の部	
繰越金	355,107
年会費	104,000
紀要掲載料	24,000
補助金	15,000
収入合計	498,107

支出の部	
通信費	17,466
印刷費 (紀要、ニューズレター)	77,741
事務費	5,798
事務用品	1,133
支出合計	102,138

次年度繰越金	395,969
--------	---------

以上、ご報告申し上げます。

2018年5月26日 会計担当理事 鉄森令子 ㊞

各位

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類及び領収書等により監査いたしました。

その結果、会計報告の通り、全て適正、正確に会計処理ができていたことを確認いたしました。

以上報告いたします。

2018年5月26日 会計監査 平本 哲嗣 ㊞
会計監査 野村 勝美 ㊞

平成30年度活動計画

1) 研究例会

- ・第1回 平成30年5月26日(土)
広島市・サテライトキャンパスひろしまにて。
例会当日、理事会および支部総会を開催。
(予定通り終了)
- ・第2回 平成30年12月8日(土)
三原市・県立広島大学三原キャンパスにて。
例会当日、理事会を開催予定。

2) 支部研究紀要『英学史論叢』第21号

(2018年5月26日発行)

巻頭言

学統を継ぐ、築く (竹中 龍範)

研究論考

日本における *Pride and Prejudice* の受容

—漱石、豊一郎、弥生子を中心に—

(田村 道美)

英字新聞 *The New Japan* 紙のこと

—新学制発足期の英語学習副教材—

(竹中 龍範)

英学史随想

佐藤清太：「心学」に学ぶ信念の人

—教授と学生—

(五十嵐 二郎)

40年前の『クラウン』のこと (河村 和也)

追悼 (風呂鞆先生)

A Conservative (鉄森 令子)

3) ニューズレター

No.92 (平成30年5月、発行済み)

No.93 (本号)、No.94 (年度内に発行予定)

>> 平成30年度第1回理事会

第1回理事会は、支部総会に先立って行われ、総会における審議内容の確認、ならびに平成30年度第2回研究例会の計画を確認しました(出席者6名)。

>> 新入会員

田口 純 (たぐち あつし) 岡山理科大学

日本英学史学会 中国・四国支部

平成30年度第2回(通算79回)研究例会(三原研究例会)のご案内

日 時： 2018年12月8日(土) 13:30 受付開始
会 場： 県立広島大学三原キャンパス (4号館4102会議室)
〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
参加費： 会員、非会員とも無料

本年度第2回(通算第79回)研究例会を、12月8日(土)、県立広島大学三原キャンパス(広島県三原市)にて開催いたします。開催にあたり、会員の本岡直子先生に格別のご配慮を賜りました。篤くお礼申し上げます。

今回の研究例会では、地元・三原の郷土史に造詣の深い田邊達雄先生(呉工業高等専門学校名誉教授・元県立広島大学)にご講話をいただくほか、津山より山田宗八先生(山田共学道場)がお越しになりご発表くださいます。この機会に、ぜひとも三原の地にお集まりくださいますようご案内申し上げます。

研究例会のあとには、忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

<< 研究例会プログラム >>

開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶

講 話(14:05~15:15)

「三原洋学所あれこれ」

田邊 達雄(呉工業高等専門学校名誉教授・元県立広島大学)

三原市の糸崎に明治初年に山陽地方で最初の英語の学校が開校したことを知る人は三原市内に住む人でも少ない。確かにそれを伝える資料があまり残っていないためでもあるというのが実情であろう。しかし、幸いなことに歴史と観光の会の会報『わが町三原』第176輯~第184輯に大谷和弘氏が詳しい『三原洋学所物語』を発表されている。この貴重な調査資料などを基に筆者は三原の英学史の観点から広島藩が英学に向かったながれを概観し、三原洋学所が開校するまでのわずか数ヶ月の開校期間ながらこの学校が三原の地に開設された成り立ちをたどってみたい。

研究発表(15:30~16:40)

『印版法術』英語受容の手引書

山田 宗八(山田共学道場)

宇田川榕菴は『印版法術』の中で、「英学ハ蘭学ト同シ其呼法韻音ハ蘭ト同カラズ」と説明している。榕菴は「「aeiou」ハ韻母ナリ、JVハ副韻ナリ」と解説している。言語学の一領域、音素を対象にして、その種類、音声形式(Phonetic form)、特徴、結合上の規則性(logical form)、韻律など「音韻論」にも精通していたと思われる。『印版法術』の中で「舎密法ニ基キタル印版ノ法術」とあるようにオランダ語と英語の類似点を解説している。その歴史的意義を探る。

閉会行事(16:45~17:00) 副支部長挨拶、写真撮影

忘年懇親会(18:00~)

会場： くいもの屋「わん」三原駅前店 (JR三原駅新幹線口すぐ)

〒723-0014 広島県三原市城町1-4-1 イクス・テン4F 電話：(050) 5347-1884

会費： 5,000円

三原例会のご出欠について

※ 例会および懇親会のご出欠をお知らせください。同封の参加申込用紙の内容について、11月29日(木)までに、メール、ファックス、郵送のいずれかでご回答くださいますよう、お願いいたします。

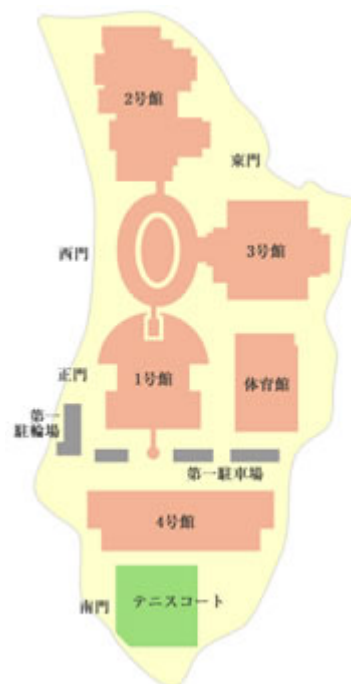
事務局連絡先 メールアドレス: eigaku@tom.edisc.jp

F A X 番 号: (0824) 74-1725

郵 送 先: 〒727-0023 広島県 庄原市七塚町 5562 県立広島大学 馬本研究室内
日本英学史学会 中国・四国支部事務局

※ 当日 12:30 より役員会を開催します(役員会は、支部長、副支部長、理事により構成)。会場は、例会と同じく 4 号館 4102 会議室です。役員会構成員の皆様は、こちらのご出欠も合わせてお知らせください。

交通のご案内 (県立広島大学ウェブサイト <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/47/access.html> より)



【キャンパス案内図】
研究例会・役員会は 4 号館にて

JR 三原駅より

バス: 三原駅南口バス 5 番乗り場から 芸陽バス「頼兼線」に乗車 (約 15 分)

「県立広島大学」(終点) 下車。運賃は 230 円

*バスは便数が限られています。タクシーのご利用が便利です。

タクシー: 三原駅南口タクシー乗り場から。料金は 1,000~1,500 円

宿泊をご予定のみなさまへ:

三原駅前にビジネスホテルがありますが、週末につき混雑が予想されます。宿泊予定の方は、各自で早めにご手配くださいますようお願い申し上げます。

英学史学会全国ニュース

>> 第55回全国大会

2018年10月20日(土)・21日(日), 大阪府教育会館 たかつガーデン(大阪府天王寺区)において開催されました。

【中国・四国支部会員による発表】

- ・保坂芳男「神奈川県の旧制中学における外国人講師に関する研究」
- ・菅 紀子「『別冊太陽』に発見した重見周吉の著述とその周辺：夏目漱石の学習院不採用に関する一考察」

>> 『英学史研究』第51号

(2018年10月1日発行)

【中国・四国支部会員による論考】

[論文]

- ・保坂芳男「萩中学の英語教育に関する研究：外国人講師に焦点を当てて」
- ・安部規子「広島高等師範学校英語教授・杉森此馬の英国留学：オックスフォードでの平田喜一(禿木)との交流を中心に」

[研究ノート]

- ・菅 紀子「『イギリス生まれの日本文学研究者 R.H. ブライス (Reginald Horace Blyth) 研究：足跡と業績』(吉村侑久代著) 2017年時点の版に基づく発展的書評」

>> 「日本英学史学会報」No.146

(2018年10月1日発行)

【中国・四国支部会員による記事】

《英学史散策》

- ・佐古敏子「英学史研究との出会いから9年を迎えて」
- ・保坂芳男「『図書館の父』田中稲城が編集した英語教科書」

※ 日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です。詳細は学会ウェブサイトをご覧になるか、支部事務局までお問い合わせください。

※ 『英学史研究』, 「日本英学史学会報」の閲覧希望は、支部事務局までお知らせください。

英学史情報ひろば

◇『日本英学史学会九州支部発足40周年記念論文集録 第2号 旧制第五高等(中)学校お雇い外国人英語教師の調査・研究：夏目金之助(漱石)教授とラフカディオ・ハーン(八雲)の業績再評価の試み』(日本英学史学会九州支部, 2018年1月)

◇菅 紀子「漱石のライバル重見周吉：イエール大学ほか新資料から見える人物像」『松山大学論集』30, 345-377. (松山大学総合研究所, 2018年4月)

◇河村和也・馬本 勉「広島発『ラジオ英語講座』の歴史：櫻井役の初等科ラジオテクニストを中心として」『日本英語教育史研究』33, 79-98. (日本英語教育史学会, 2018年5月)

◇五十嵐二郎「思い出の表現英語三題」『The Cornerstones』39, 2-4. (北海道教育大学函館校英語同窓会, 2018年7月)

◇江利川春雄『日本の外国語教育政策史』(ひつじ書房, 2018年8月)

◇馬本 勉・河村 和也「広島発『ラジオ英語講座』の歴史(2)：他放送局との比較を中心に」日本英語教育史学会第269回研究例会(2018年9月15日 サテライトキャンパスひろしま)

◇金田道和「2018 英語教育事情管見：今次改革に対する異論の吟味を通して」(LRT 代表・上杉進, 2018年10月)

◇明治150年記念講演会「庄原英学校にみる明治時代の庄原の姿」(2018年11月3日 国営備北丘陵公園)
・武田祐三「『慶応義塾分校』庄原英学校の歴史」
・馬本 勉「庄原英学校と明治の英語学習」

◇『英語教育史重要文献集成』(第Ⅱ期) 全5巻 江利川春雄(監修・解題) (ゆまに書房, 2018年11月)

支部会員の皆さまによる著書、論文、エッセイ、講演、研究発表や、英学史に関係する資料等の情報をお寄せください。

中国・四国支部事務局より

>> 年会費納入のお礼とお願い

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費（一般3,000円、学生2,000円）をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行「振替払込用紙」を用いる場合
(口座番号) 01360-9-43877
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

他の金融機関から振込む場合
(店名) 一三九(イサキヤ)店(139)
(口座番号) 当座 0043877
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

>> 紀要の配付と販売について

研究紀要『英學史論叢』は、会員の方へ一部ずつ、研究論考・研究ノート執筆者には所定の部数をお渡ししています。最新号やバックナンバーをご希望の方には、一部1,000円（非会員1,500円）にて販売いたします（郵送料込）。詳細は事務局まで。

バックナンバー収載の研究論考等のタイトルは、支部ウェブサイトにてご確認ください。

『英學史會報』『英學史論叢』所収論考一覧 URL
<http://tom.edisc.jp/eigaku/bulletin/eigakushi-kaiho-ronso.htm>

>> 『英學史論叢』第22号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第22号(2019年5月発行予定)にぜひ多数のご投稿をお願いいたします。

研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

・ご投稿に際しては、本ニューズレターに掲載の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。

・標準書式に整えたファイル(テンプレート)をご希望の方は、事務局までお知らせください。

メール: eigaku@tom.edisc.jp

ファックス: 0824-74-1725

・原稿提出の締切は、**2019年2月20日**(消印有効)です。事務局まで郵送してください。

・研究論考・研究ノートは、正副計3部をお送りください。**正本1部にのみ著者名を明記し、副本2部には著者名を伏せてください。**

・英学史随想、書評等は1部お送りください。

『英學史論叢』執筆要領

1. 『英學史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
2. 研究論考・研究ノート、その他のものとも、標準書式に従った完全原稿をパソコン等を用いて作成し、プリントアウトして提出するものとする。執筆者による校正は行わない。
3. 研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および全国大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出するものとし、正本1部には著者名を明記し、副本2部には著者名を伏せる。
4. 研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
5. 掲載決定後の最終原稿は、修正を求められている場合はそれに対応した上で、プリントアウトしたもの及びデジタルデータを提出する。原稿は提出されたものをそのまま印刷するものとし、したがって、執筆者による校正は行わない。
6. 研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。但し、ページ数超過の場合は、超過分について1ページ当たり1,000円を負担する。
7. その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および編集委員会の執筆依頼によるものとし、いずれも原則として2ページ以内とする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。

『英學史論叢』標準書式

1. 用紙はB5判白紙を用い、上部および下部に25mm、左右に20mm、それぞれ余白をとる。
2. 本文は、10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。フォントは、和文は明朝体、欧文はCenturyを用いる。和文中の読点は「、」（全角コンマ）とし、和文・欧文を問わず、英字・数字はすべて半角文字とする。
3. 本文第1ページに論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは18～22ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。第1ページには、タイトル、執筆者名に続いて、30行を本文（見出しを含む）にあてる。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
4. 本文中の見出しについては前節との間を1行アキとし、番号を付してゴシック体とする。但し、見出し中に欧文が含まれる場合にはそのフォントをArialとする。
5. 注は、尾注とし、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
6. 参考文献は論文末に一括して示す。

広島英学史の周辺(59) 明治元年から満150年を迎えた今年、各地で「明治150年」に関連した催しが行われています。庄原市の備北丘陵公園で開かれた「明治150年記念講演会」もその一つ。9年前の「庄原英学校設立125年記念講演会と写真・資料展」に続き、今回も武田祐三先生（元 庄原市田園文化センター館長）とご一緒しました。▼前回私は、庄原英学校で使用された教科書 *New National Readers* の独習書を著した森修一（1861-1931）と、その生家である森書店（当時は広島県三上郡庄原村）について話しました。今回は続編として、前回の講演以降続けている独習書研究から明らかになってきた明治期の訳読法に焦点を当てました。予想を上回る聴衆があり、庄原の皆様の熱気を感じるひとときでした。▼訳読法に焦点を当てた理由の一つに、庄原英学校の実情を語る「新資料」と巡り合えない、という事情があります。『広島県統計書』には合計19名の卒業生があったと記されていますが、わずか一人でも個人名が分かればと願い、関連資料を求める日々です。▼資料の乏しい学校の歴史を記述することは大変ですが、今年度第1回研究例会での安部規子先生の報告では、それを粘り強く続けておられる方のご紹介がありました。校史を持たない岡山朝日高校の、その前身である岡山中学・岡山一中からの資料を追い、記録に残し続けておられる後神俊文先生。ご自身を「鬼」と称される先生の、資料蒐集と執筆に向かわれる情熱は、手許の『岡山中学事物起源覚書』（1988）、『旧制岡山中学校史余録』（2016）からも強烈に伝わってきます。▼母校史への熱い思いは、安部先生のご研究姿勢からもにじみ出ています。安部先生の母校である修猷館と、それ以前に岡山尋常中学校で英語教師をつとめた小田堅立。修猷館での氏の授業は、五高教授・夏目金之助に絶賛されたといわれます。両中学で教えた小田堅立の存在が、後神先生と安部先生の

ご研究を結び付けたことにも感銘を覚えました。▼この秋は庄原での講演会のほか、学外で話をする機会が多く、各地を飛び回っています。先日も今治市内の高校へ出張講義に出かけ、6年前に支部例会で今治を訪れたことを思い出しました。▼その時に発表いただいた菅紀子先生は、今治出身の重見周吉のご研究を続けておられ、最近も論文を発表されました（『英学史情報ひろば』を参照ください）。アメリカで出版された重見の *A Japanese Boy, by Himself* (1899) のリプリント版を入手していた私は、今治での出張講義でその一節を紹介しながら、英語の学びの変遷について話しました。▼今治での例会時に市立図書館でコピーしておいた論文「明治10年代における今治の男子中等教育事情」（永井紀之、『今治史談』No.13, 2007年）では、廃校後の中学校舎を用いた英学校についての言及があります。同志社や教会と接点のある今治の「英学校」は、庄原英学校との類似点があるのではないかと。そんな直感から調査を進めています。中学校として存続が叶わず、姿を消した明治期の英学校は他にも多数あると思われます。このテーマを持って、全国各地の図書館や古書店で資料蒐集を続けてみよう。そこから庄原英学校の謎が解けてくるかもしれません。▼では皆様、三原の研究例会でお会いしましょう。（馬）

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.93

2018年11月22日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部（代表 竹中 龍範）

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: 0824-74-1725（研究室直通）

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.93 November 22, 2018